CSR

特集：被災地への輸送サービス支援

東日本大震災の影響により岩手・宮城県沿岸部の町は甚大な被害を受け、そこを運行していたJR気仙沼線、JR大船渡線も駅舎や線路を流失するなど大きな被害を受けました。沿線の復興・まちづくりには相当な時間を要することが想定されるとともに、鉄道の復旧についても相当の時間がかかることが想定されました。

震災後から地域のバス会社による振替輸送がおこなわれ、商店や工場などが少しずつ復興しはじめているなかで、通勤、通学や通院、買い物など地域の需要に応えるため、早期の改善が望まれていました。

そこで、JR東日本は2012年5月に沿線自治体の合意を得て、JR気仙沼線の仮復旧として線路敷を舗装し専用自動車道を整備しバスを運行する、BRT（Bus Rapid Transit、バス高速輸送システム）を運行させることとしました。

日野自動車ではこのBRTに、人にも環境にもやさしいハイブリッドバス26両を納入しました。

BRTは専用自動車道を走るため信号待ちや交通渋滞などの影響を受けにくく、定時・速達走行することができるバス運行システムであり、まちづくりの各段階に合わせて走行ルートの変更や駅の移設・増設など柔軟な対応が可能です。また、一般道も走行できるため早期の路線運行開始が可能です。さらに、バスであれば万が一、地震・津波が起きた時にもレール外へ自力走行により避難することができます。

気仙沼・大船渡線BRT運行ルート略図

運転席から専用道路を臨む
一般車両の誤進入を防ぐため、ゲートを設置

単線の線路敷を利用しているため、路面幅は一車線

JR東日本はBRTの運行を開始するにあたり、バス事業の許可を取得するとともに、BRTの運行管理やお客様案内対応をおこなうための事務所として、気仙沼BRT営業所を開設しました。また、BRTの運行は地域のバス会社へ委託をおこなうこととし、両社が一致協力してBRTの準備を進めてきました。

そして、沿線の学校の2学期開始時期に合わせた2012年8月20日に、専用道2.1kmと中古バスを使用して気仙沼線BRTの暫定運行を開始しました。さらに、同年12月22日には、日野自動車が納めたハイブリッドバスを導入して本格運行を開始し、年末に帰省される人々を新車で迎えることができました。

また、大船渡線は震災から2年を迎える前の2013年3月2日に運行を開始し、こちらにも日野自動車のハイブリッドバスが導入されました。

ノンステップで小さなお子さんから高齢の方まで安全に乗り降りしていただけます

日野自動車のバスは、乗り降りのしやすいノンステップで「人にやさしく」、有害物質を含まず使用期間の長いLEDライトを採用し、ハイブリッドシステムによりCO_2削減による地球温暖化防止に貢献できる「環境にやさしい」乗り物で、復興を望む地域の皆さまの期待に応えられる車両です。もちろんまだ瓦礫の残る現地ですのでノンストップバスを持ち込み、ラッシュを想定した重しを乗せ、走行確認したうえで納車いたしました。

運行開始イベントでは
子どもたちの絵が飾られました

納車時のバスの外観は朱色に白い帯のツートンカラーでしたが、JR東日本は地域の皆さまに楽しんでいただき元気になってもらいたいという思いから、虹や星、地域のキャラクターが描かれています。「振替輸送のバスと比較して本数が多く便利」と通学でBRTを利用する方の声が新聞に取り上げられるなど、多くの皆さまに通勤や通学、買い物、通院などに利用していただいており、環境にやさしく、音も静かで乗り降りがしやすいバスと好評をいただいています。

皆さまの生活を支える移動手段として、震災前の状態に少しでも近づいていただけるよう、日野自動車はこれからも人と環境にやさしい車両の提供を通じて、被災地の復興の一翼を担ってまいります。

3月2日運行を開始した大船渡線のBRT

気仙沼や宮城県のキャラクター6種類がバスを彩ります

VOICE

東日本旅客鉄道（株）総合企画本部 復興企画部
野島貴司氏

一刻も早く、被災地の足を復活させたいと思いました。バス事業を基礎からつくり上げるため色々勉強していくなかで、BRTは復興を望む地域の皆さまの期待に早期に応えることができると確信しました。

人にやさしく、環境にやさしいハイブリッドノンステップバスが、地域の活性化のために活躍してくれることを期待しています。

日野自動車（株）バス部
小野大輔

震災復興にはスピード感を求められたため、現地調査や、仕様書の作成、そして車両製造など、タイトな業務が連続しました。しかし、BRTが必ず被災地の皆さまのお役に立てると思っていました。本格運行を開始し地域の皆さまを乗せて走る日野ノンステップ・ハイブリッドバスを見た時は、ほっとしたとともに、本当に誇りに思いました。これからも被災地の復興に貢献できるよう、皆さまの期待に応えられるよう頑張ってまいります。

ハイブリッド路線バスの被災地への導入に全社をあげて取り組んだことでJR東日本より感謝状をいただきました